

# 阪急茨木市駅前

## 将来 イメージ

「次なる茨木へ。」に向けて



この将来イメージは、本市中心市街地における東の拠点である【阪急茨木市駅前】の概ね30年後の姿をイメージしたものです。

これまで市民、事業者、行政等が各計画の策定過程におけるワークショップなどで議論を重ねてきた想いを『絵』にすることにより、皆様と共有を図り、相互に連携・協力し将来に亘って、継続したまちづくりの取組を進めていくものです。

まちづくりは、行政だけで実現できるものではなく、まちで暮らす皆様一人ひとりの想いが形となり、実現されていくものです。

次なる茨木のまちを皆様と創造していきましょう。

### — 阪急茨木市駅前将来イメージに込めた思い —

「中心市街地に人が集まり、憩いや賑わいがある“いばらき”で暮らしたい。」  
そのために、「まちを車中心から人中心に変えたい」、「駅前に憩いの広場をつくりたい」、「歩いて楽しいまちにしたい」そんな想いを一枚の絵に込めました。

最も大きく描かれている駅前の「憩いの広場」は、“たまる空間”と“つなぐ空間”の役割を持っています。この二つの空間は、市民や駅利用者が日常的に利用でき、周辺の方々や協働した取り組みの実施など多様な活動の『場』となります。また、沿道での魅力的な取り組みや店舗が周辺地域へ人を誘うなどハード・ソフト両面でまちとつながる拠点となります。駅前から市役所方面と商店街方面に続く2軸の動線を活かし、まちに開かれた、ゆとりのある空間になるよう充実が図られています。

2軸の動線は、歩行者が快適に通行できる空間となり、店舗など周辺建物と一体となった魅力も生まれています。

「中心市街地に人が集まり、憩いや賑わいがある“いばらき”で暮らしたい。」という想いに合わせて、暮らし方やまちの姿は変化していく必要があります。今回、描いた一枚の絵がその変わる【きっかけ】や【道しるべ】になれば幸いです。



将来イメージ：ラフスケッチ

## これまで描かれてきた阪急茨木市駅前

回遊性や憩いのある中心市街地への再整備により、魅力ある賑わいの拠点形成を図る

第5次 茨木市総合計画 | 平成27年(2015年)3月より

「賑わい、景観、交通利便性」の向上と集客力を高めるとともに、緑化の推進やゆとりある空間を創出し、地域の活性化とイメージの向上につなげる

茨木市都市計画マスタープラン | 平成27年(2015年)3月より

時代に即した多様な機能の導入と駅前広場と一体となった空間を創出し、中心市街地の活性化と魅力向上を図る

茨木市立地適正化計画 | 平成31年(2019年)3月より

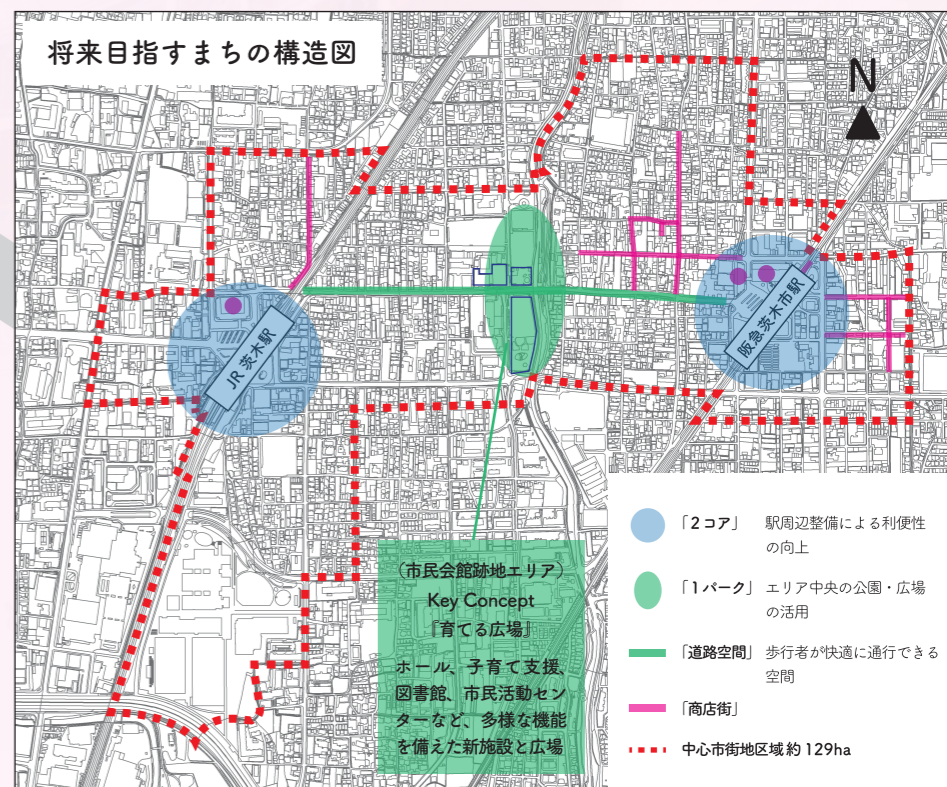
2コア1パークを中心に、歩行者が快適に通行できる空間の整備を目指す

茨木市中心市街地活性化基本計画 | 令和元年(2019年)12月より

東西軸と商店街の接点となる機能や場を備えた拠点整備

次なる茨木・グランドデザイン(たたき案) | 平成30年(2018年)4月より

※これらの計画には、市民、事業者、行政等が参加したワークショップ「いばらき MIRAI カフェ」やアンケート等、市民の皆さんの想いが込められたものとなっております。



【お問い合わせ】 茨木市 都市整備部 市街地新生課 〒567-8505 茨木市駅前三丁目8-13  
電話：072(620)1821 ファックス：072(620)1730 メール：shigaichi@city.ibaraki.lg.jp

artwork: One Art Project

この印刷物は2000枚作成し、この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

リサイクル適性(A)

## 市民・事業者・行政等が描いてきた「阪急茨木市駅前」の目指すイメージ

はたらく  
にぎわう  
はぐくむ  
いこう  
すむ  
つどう  
なごむ  
いとなむ

多様性を備えた阪急茨木市駅前

## 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会で描いた阪急茨木市駅前

平成30年(2018年)8月-令和2年(2020年)3月

### 実現したい まち

- ・交通の安全性や利便性の高いまち
- ・人が集い、賑わいがある人中心の駅前
- ・まちの魅力を高める駅前
- ・駅前とまちにつながりがあり、歩きたくなるまち

### 実現するために 必要な モノ・コト

- ・歩行者が快適に通行できる空間
- ・多目的(休憩・待合せ・多世代交流・イベント等)に利用できる広場
- ・多様なニーズに応える施設や魅力的・個性的な店舗
- ・駅前を拠点に、商店街と中央通りを活かした歩いて楽しいまちづくりの演出